障がいのある人とその家族が
地域の中で尊厳を保ちながら
普通の暮らしが出来るよう支援する

NEWS

社会福祉法人
京都障害者福祉センター

11月号
No. 217 R3/11/1
編集：支援センター
発行：本部事務局
http://www.kyofc.or.jp

～新型コロナウイルス～感染再拡大に警戒を～

７月中旬頃から急激に増えた感染者は、８月下旬にピークに達し、８月 24 日には京都市内で過去最多の 402 名が確認され、医療体制も逼迫、自宅療養を余儀なくされた方が死亡するなど、デルタ株が猛威を振るう事態となりました。

その後、感染者数が減少に転じると９月中旬以降は１週間ごとにほぼ半減し、９月末で緊急事態宣言も解除、人の動きも活発になってきました。

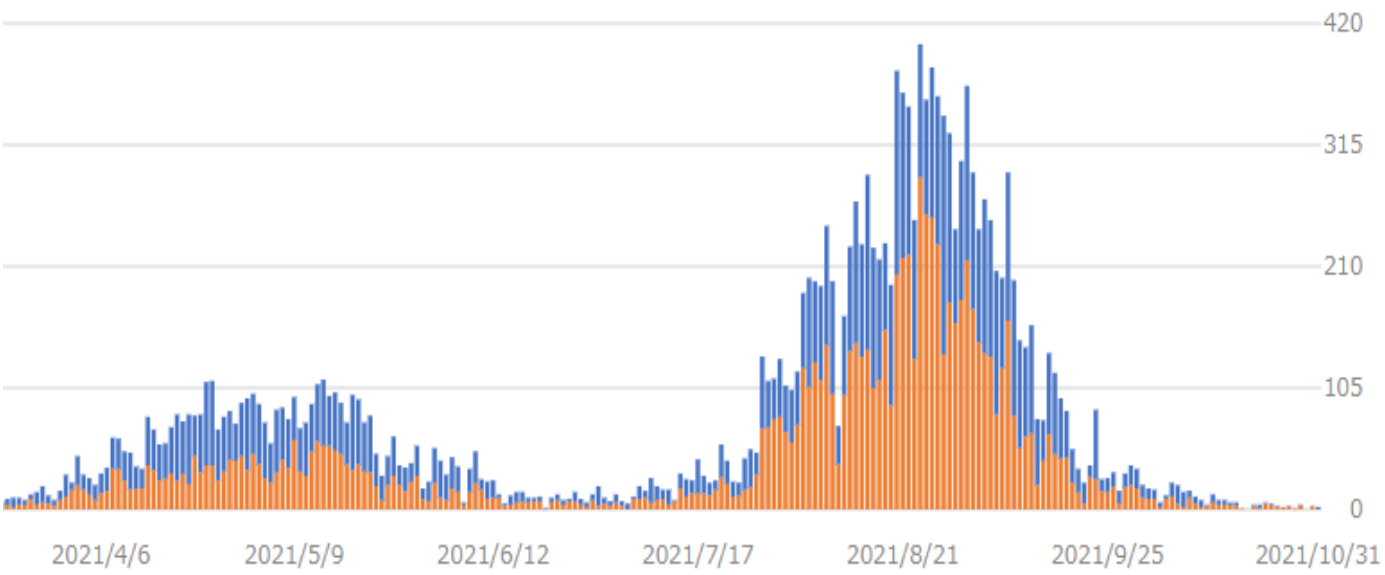
当法人の施設では、職員、職員の家族、利用者及び利用者の家族で、ＰＣＲ検査を受けられる事例が先月１０月は１件（９月：８件）で、累計で 135 件となりました。

なぜ急速に感染者が減ったのかは、「ワクチン接種の進展」、「人々の行動抑制」など複数の要因が挙げられていますが、専門家の間でも完全に解明されておらず、今後「減少局面がどこまで続いて、その後増加するかの予測も難しい。」とされています。

冬は屋内で過ごす時間が増える、忘年会等のイベントが増える、ワクチン効果が落ちるなど感染増加に繋がる要素も指摘されています。

職員の皆さんにおかれましては、引き続き、マスク、手洗い、距離確保、三密回避をはじめとする日々の感染対策、利用者、職員の健康状態の把握など基本的な対策の徹底をお願いします。

京都市内の感染者数（日別）
凡例（青：感染経路判明分、橙：感染経路不明分）



令和３年度第３回理事会を開催しました

１０月２１日（木）午後２時から、洛南身体障害者福祉会館において、全ての理事・監事出席の下、「令和３年度第３回理事会」を開催しました。

議題は令和３年度第１次補正予算案について、報告事項は①理事長・常務理事の職務執行状況報告について②新型コロナウイルス感染症への対応と影響について③資産運用計画及び実施状況について④令和２年度決算生産性比較についてで、事務局から説明、報告が行われました。

議題については原案通り承認され、報告事項については京都市によるコロナウイルス感染症に関する補助金や生産性比較における人件費の割合、来春採用予定の新卒者の見込み等について、活発な質疑が行われました。

令和３年度第２回評議員事業報告会を開催しました

１０月２８日（木）午後２時から、京都テルサにおいて、評議員９名と全ての理事・監事出席の下、「令和３年度第２回評議員事業報告会」を開催しました。

①令和３年度上期の主な業務執行状況②新型コロナウイルス感染症への対応と影響について③資産運用状況について、事務局から報告が行われました。新型コロナワクチンのＰＣＲ検査実施のタイミングや利用者のワクチンの接種状況、コロナ禍における利用者の健康診断、来春の職員体制の確保見込み、資産運用に当たっての手続等について、活発な質疑が行われました。

（本部事務局）

管理職研修「誰ひとり取り残さない社会を目指して ～ＳＤＧｓとレジリエンス～」を開催しました。

１０月１４日（木）午後４時から、講師に元京都市副市長でレジリエント・シティ京都市統括監藤田裕之氏様をお迎えして、管理職研修「誰ひとり取り残さない社会を目指して ～ＳＤＧｓとレジリエンス～」を開催しました。

SDGs とは「持続可能な開発目標」、簡単に言うと「世界中にある環境問題・差別・貧困・人権問題といった課題を、世界のみんなで 2030 年までに解決していこう」という計画・目標のことです。

2015 年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意し、17 のゴールと 169 のターゲットで構成されています。

なぜ、当法人で「ＳＤＧｓ」と思われるかもしれませんが、SDGs の基本理念「誰ひとり取り残さない。」は、社会福祉法人が目指す「地域共生社会」づくりにまさに合致するものです。

研修を受講するまでは、何か新しいことをスタートしないといけないのかと思っておりましたが、すでに法人として、日々実践していることも多くあり、それをＳＤＧｓの 17 項目にどう関連付けしていくことが重要と感じました。

また、もうひとつの「レジリエンス」は、あらゆる危機や課題に強くしなやかにという概念で、私たちを取り巻く環境は、新型コロナや自然災害だけでなく、様々な危機に直面しています。

持続可能な社会や地域を志向するうえで、この「ＳＤＧｓ」と「レジリエンス」は表裏一体の関係にあり、この二つをいかに融合し、今後の法人運営にどう実践していくか、見える化していくかが今後の課題と感じました。

職員一人ひとりが、「ＳＤＧｓ」と「レジリエンス」を意識し、「自分ごと」、「みんなごと」として取り組めば、私ども法人として地域と向き合い、未来を見据えた取組を着実に推進していけるのでは考えています。

（本部事務局：西田　哲郎）

洛南エリアTOPICS　【洛南デイあすなろ】

スポーツの秋到来！

昨年より多くのご要望、ご希望、お問い合わせをいただきながらも再開を見合わせていた卓球バレー。およそ 1 年半の自粛期間を経て、ついに今秋、再開の日を迎えることが出来ました！ゲームに参加する際は「３密」を避け出来るだけ少人数で、マスク着用や消毒など感染防止に留意致しました。

午後のプログラムでの再開予定でしたので、ゲーム内で全力を発揮するため、午前のプログラムをセーブされるご利用者もおられました。

ゲーム開始！

力強いサーブで開幕しました。参加者全員、白球を目で追い「おぉ～」「やった～」自然と歓声が上がります。正面突破やコースを狙い、決まるとバンバン！と床や台を優しく叩き、好プレーには拍手を送りました。卓球台周辺は、熱くも楽しそうな雰囲気に包まれていました。

初めて卓球バレーを知ることとなる職員も複数名おり、本日の再開には興味津々でした。途中、参加者の交代も行い、終始白熱した展開が続きました。

楽しい時間はあっという間に過ぎてしまうもの。追加のゲームも行い終了。参加された利用者の皆さんからはスポーツを楽しむ様子や、沢山の笑顔をいただきました。

引き続き感染防止に留意し、楽しみながら身体を動かす機会、スポーツの秋を提供していきます。

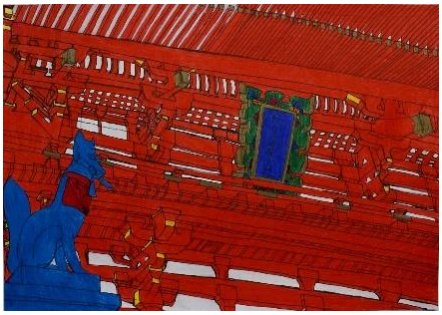
（洛南障害者デイサービスセンター「あすなろ」：永井　孝明）

伏見エリアTOPICS①　【京都市ふしみ学園】

アトリエやっほぅ!!の活動報告です！

日吉雅治さんが初受賞です！！

「産経はばたけアート公募展 2021」で日吉雅治さんが見事優秀賞を受賞されました。
受賞作品「伏見稲荷大社」は強烈な鳥居の朱色と扁額（へんがく 看板）、きつね像の青色とのコントラストが目に鮮やかな作品です。
今年度はコロナ禍で表彰式がなかったため、アトリエでメンバーとお祝いをしました。
10 月 16 日、17 日大阪市北区梅田のブリーゼブリーゼで受賞作品展も開催されました。
日吉さんはご家族で見に行かれたそうです。
本当におめでとうございます！！



やっほぅ!! メンバーもリモートで打ち合わせ？？

やっほぅ!!の大事な目標の一つがアートを通じて、一般の方々と社会交流することです。
数年前からアトリエに見学者がたくさん来られています。その時に交流できるように手作り名刺を制作し、名刺交換の仕方も練習しました。
そうしている内に、昨年春からのコロナ禍で、見学者をお断りせざるを得なくなり、直接交流ができなくなりました。

世の中でも会議がリモートで行われるのが普通になりました。そして最近、やっほぅでもメンバーの皆様がリモートでインタビューを受けることが増えています。初めは画面の中の相手に話しかけることに緊張されたり、恥ずかしかったりされていました。何回か経験されるうちに慣れてこられ、今ではリモートでのやりとり（交流）を楽しんでおられるようです。

（京都市ふしみ学園：中島　慎也）

伏見エリアTOPICS②　【京都市ふしみ学園】

利用者さんへのコロナワクチン接種の実施

新型コロナウイルスは国内でのワクチン接種率が進み、１０月中旬時点では第５波が落ち着きをみせつつあります。しかし学園ではかねてより、『病院等での予約が取れない』『取れても障がい特性から接種しに行く事が困難である』『家庭の事情で接種しに行けない』などといった悩みをお聞きする機会が増え、『園での集団接種の予定はないのでしょうか』といった相談が寄せられるようになりました。

そこで、園では協力医療機関を探し、この度、奥村小児科様のご協力により、園での接種を行いました。

まず接種を希望される方のアンケートを行った後、1 回目の接種を 10/4 に行い、2 回目を 10/25 に行いました。

希望される利用者さんには、分かりやすく絵カードなどを用いて接種する旨伝えたり、分室の方は接種場所を分室１階の“交流スペースひだまり”で行うなど、個々の障がいに応じて柔軟に配慮の上接種を行いました。

接種は順調に終了し、学園利用者のほぼ全員が接種した事になります。

ただ接種したからといっても絶対に感染しない訳ではありませんので、今後も手洗い、消毒、などといった基本的な対策は継続して行います。

そして一日も早くマスクを外して活動できる日が戻る事を祈っています。

（京都市ふしみ学園：久野　靖）

山科エリアTOPICS　　【だいご学園】

GOODNATURESTATION 出店のご案内

11月６日（土）、７日（日）11：00～16：00まで、GOODNATURESTATION(グッドネーチャーステーション)店舗前で発酵マルシェのイベントに出店させて頂くことになりました☆

その後、店舗でもだいご学園オリジナル・はちみつと生クリームを使用し、そのまま召し上がって頂きたい「そのまま生食パン」が木曜日、ふらっとでも好評の無添加で癖のない食パンを「いつもの食パン」と名付け、こちらは金曜日に店舗内でお買い求めいただけます☆

だいご学園のキャラクター「ハッピー君とゆめちゃん」がそれぞれの目印となっています☆

マルシェには、新商品も多数出展しています。
６日、７日の土日は是非、四条河原町高島屋のお隣に位置するグッドネーチャーステーションにお出かけください(^^)/☆

（京都市だいご学園：寺地　ヒサ子）

支援センターNEWS　　【支援センターらくとう】

らくとう＆京都市主催で京都市民対象の研修を行います！！

基幹型の支援センターの役割で、市内 5 か所の基幹型支援センターが毎年輪番で市民対象の『障害理解の普及・啓発事業』研修を行うこととなっており、今年はらくとうが担当ということで、研修を企画しました。

別紙チラシにも載せているように、研修の目的として

✿コロナ禍での子どもたちがどのような生活をしていたのか。

✿子どもたちを取り巻く現状と課題を知り、一市民として、専門職として何ができるのかを一緒に考える。

研修の流れとしては、前半で山科醍醐こどもの広場村井氏から『子どもを取り巻く現状と課題』について講義いただき、グループワークをはさみ、後半でらくとう山下から『ファミリーホーム創設に向けて。地域課題から解決に向けて』について支援報告をさせていただきます。

また研修の内容を、山科醍醐こどもの広場グラフィッカー三宅氏に記録いただく予定です。

らくとうとしては、困りのある相談に対して、「制度がないから、何もできない」ではなく、「どうしたら作っていけるか、どうしたら補えるか」、また「地域で困っている子どもさんたちを、地域の皆さんとどう支えていくか」を、ご参加いただいた皆さんと一緒に考え、いろんなご意見をお伺いし、今後の支援に活かしていきたいと考えています。

支援センターは、相談に対して、利用可能なサービスや社会資源をご紹介するだけではなく、ニーズを把握し、必要性のあるものをどう作っていけるのかを、地域の皆さん、関係機関の皆さんと試行錯誤していく、ということも業務の一つです。

このような働きかけを、法人職員の皆さまと一緒に考える機会を、別で設けていきたいとも考えております。

今回の研修は、平日の日中というところで、法人職員の皆さまにご参加ただくのは難しいことだと思いますが、このような研修があるということを、可能なところで広報いただけたり、コメントをいただけると大変嬉しいです。

（京都市東部障害者地域生活支援センター「らくとう」：山下　笑子）

【令和３年度基幹支援センター研修事業】

京都市基幹支援センター障害理解の普及・啓発事業

『子どもを取り巻く現状と課題と何ができるか』

コロナ禍の閉そく感の中、大人以上に大きな影響を受けているのが子どもたちです。しかし頼りにすべき大人が混乱して、結局ぽつんと残されてしまうのも子どもたちです。また自ら発信し難い子どもたちも多くいます。この状況の中、私たちは一市民として、専門職として何ができるのか、一緒に考える機会としたいと思います。

１　日　時　　令和３年１１月１７日（水）13:30～16:30（受付 13:00～）

２　場　所　　京都テルサ　東館２階　セミナー室

３　講　師　　村井　琢哉氏（ＮＰＯ法人　山科醍醐こどものひろば理事長）
　　三宅　正太氏（ファシリテーショングラフィッカー）

４　対　象　　このテーマに興味のある方

５　定　員　　７０名
　　＊定員の関係でご参加いただけない方にのみご連絡差し上げます。

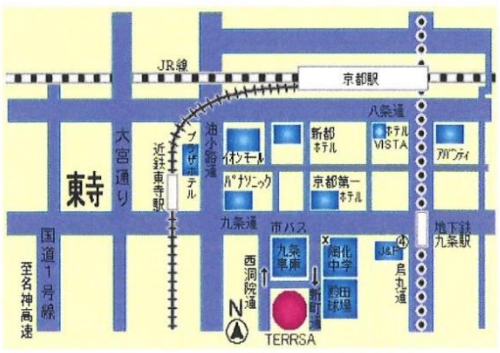
６　参加費　　無料

７　申し込み　別紙に必要事項を記入の上、１１月１０日（水）までにＦＡＸにて返送願います。

８　主　催　　京都市

９　新型コロナウイルス感染防止の対応について
- マスクの着用をお願いいたします。
- アルコール消毒の実施（研修会場にアルコールを準備いたします）。
- 会場内での座席は極力距離を確保いたします。

京都テルサ
〒601-8047 京都府京都市南区東九条下殿田町 70



<お問合わせ先（研修実施機関）>
京都市東部障害者地域生活支援センター
「らくとう」
TEL:075-591-8856
FAX:075-502-0084
担当：酒伊、中村

（裏面に続く）

【１０　プログラム】　＊プログラム内容は変更する場合があります

13：00　　受付開始
検温、消毒をお願いします

13：30　　【開会】挨拶
京都市～
司会　講師紹介

13：40　　【講義】「（仮）子どもを取り巻く現状と課題」
講師：村井　琢哉氏

【グループワーク】
どんな困りがあるのか、出し合いましょう。

14：40　　（10分）休憩

14：50　　【報告】「ファミリーホーム創設にむけて。地域課題から解決に向けて」
報告者：山下　笑子（京都市東部障害者地域生活支援センター「らくとう」）

【グループワーク】
今の立場から、今からできることを考えていきましょう。

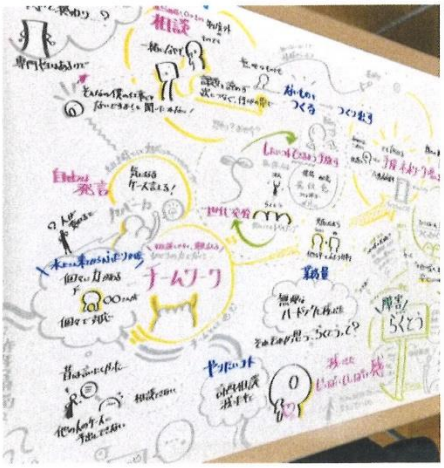
15：50　　【フィードバック/Q&A】

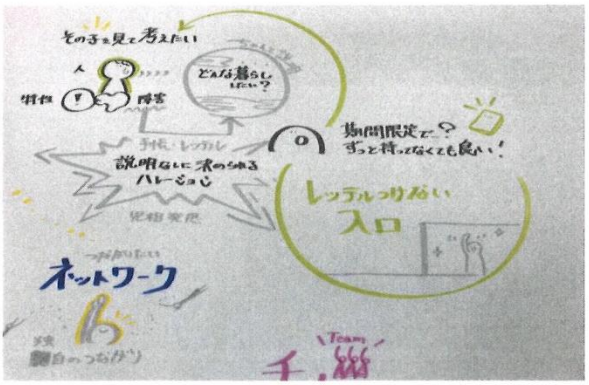
16：20　　【講評】
講師：三宅　正太氏

16：30　　【終了】

【三宅さんのグラフィック一例】

グループワークや会議をこんな感じにまとめて頂きます！





【令和３年度基幹支援センター研修事業】

『子どもを取り巻く現状と課題と何ができるか』

参加申込書

申込み期限　１１月１０日（水）必着

FAX 送信方向

FAX 番号

075-502-0084

京都市東部障害者地域生活支援センター「らくとう」　行

氏名	
住所	
所属	
連絡先（電話・FAX 等）	電話　　（　　） FAX　　（　　）
受講に対する必要な配慮 **※配慮が必要な際には、ご記載下さい。**	車いす使用 ・ 手話通訳必要 等 その他（　　） ※受講に際し配慮が必要な方は、**11月3日(水)まで**に参加申し込みをお願いいたします。

※記入いただいた情報は、当該研修の運営に使用をさせて頂きますので、予めご了承下さい。

上記以外の目的で本人の了承なく個人情報を第三者に開示することはありません。

正しいマスクの着用

covid-19

基本的な感染防止対策を!

こまめな手洗い

外出先での手指消毒

「もしかしてコロナかも」と思ったら、まずは電話で相談を！

身近な医療機関

きょうと新型コロナ医療相談センター
☎075-414-5487 365日24時間 京都府・京都市共通

京都府　京都市